

家族・親族・知人の連絡先

名 前	生年月日	血液型	持病等	携帯の番号やメールアドレスなど

緊急連絡先

消 防 119		警 察 110		病 院	
広尾消防署	01558-2-2730	広尾警察署	01558-2-0110	広尾町国民健康 保険病院	01558-2-3111
音調津消防会館	01558-2-5324	豊似駐在所	01558-5-2151	広尾ファミリー クリニック	01558-2-2700
野塚消防会館	01558-5-2626	音調津駐在所	01558-2-5211	クリニック つつみ	01558-2-0223
豊似消防会館	01558-5-2140	役 場	01558-2-2111		

電話がつながりにくい時は **災害用伝言サービス** の利用を

災害用伝言ダイヤル171

電話を利用する声の伝言板です。

自分が伝言を録音するとき 相手の伝言を再生するとき

171にダイヤルする(ガイダンスが流れます)

1を押す 2を押す

被災者の方はご自宅の電話番号を、被災地域以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番から入力してください

1#を押し録音する(30秒) 1#を押すと再生が始まる

9#を押す(終了) 固定電話や公衆電話・携帯電話・PHS・IP電話が利用可能です

携帯電話各社の災害用伝言版

携帯電話などを利用して安否の登録・確認が可能です。大規模な災害が発生し被災地との連絡が困難になった場合に災害用伝言版が開設されます。

登録方法 確認方法

各社公式サイトトップ画面 災害用伝言版 を選択

登録を選択 確認を選択

「無事です」などの状態の選択と、100文字以内のコメントを入力する

安否確認したい方の携帯電話の番号を入力して検索する

登録を押して完了

北海道
広尾町
2023年
保存版

すみやかな避難が
大切な命を守ります

～津波防災ガイドブック～

いざというときに備えて記入しておきましょう！

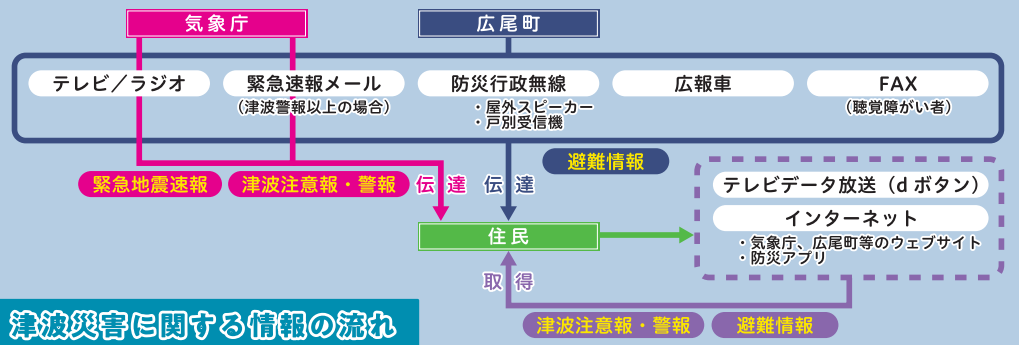


指定緊急避難場所



指定避難所
(第一次避難所)

家族が離れたときの
集合場所



津波災害に関する情報の流れ

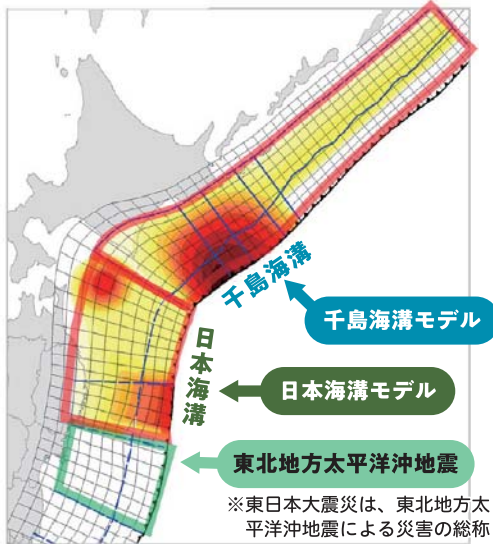
早期避難が命を救う。 ～ 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定 ～

北海道は、令和4年7月に日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震が発生した際の「被害想定」を公表しました。この想定は、具体的な被害を市町村ごとに算定し、被害の規模などを明らかにすることにより、地域において有効な防災対策を検討するために作成されました。
この被害想定を受け広尾町では、対象地域の町民に「いかに速やかな避難行動をとってもらえるか」を主眼に置き、考える様々な対策を講じています。

厚岸町付近で震度7
えりも岬から東側の沿岸部(広尾町含む)では **震度6強**

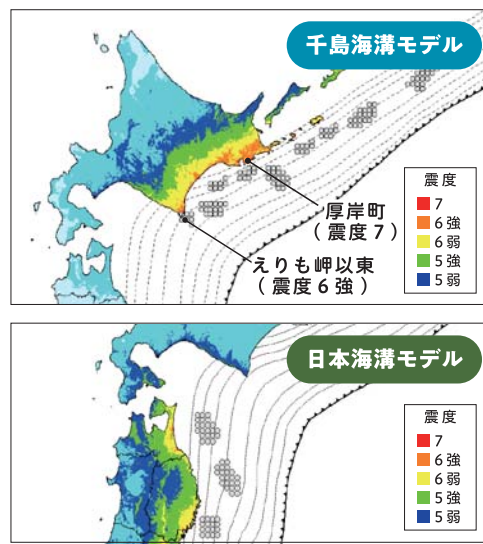
想定される地震動

≪検討領域≫



出典：「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定について (2022年7月、北海道)」

≪推計した震度分布≫



出典：「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会 最終報告書 (2022年3月、内閣府)」

広尾町の最大津波高 **25.4 m**

想定される津波

	広尾町(全体)	十勝港	広尾川河口	音調津
最大津波高(平均海面からの高さ)	12.5～25.4 m	16.8 m	17.8 m	14.4 m
(参考)最大津波到達時間	30～40分	38分	38分	34分
影響開始時間(+20cm)	4～23分	22分	19分	5分

死者最大 **260人** 「**すぐに避難**」で被害 **7割減**

広尾町の被害想定結果

≪建物被害(全壊棟数)≫

	夏季の昼	冬季の夕方	冬季の深夜
揺れ	40棟	120棟	120棟
液化	30棟	30棟	30棟
津波	450棟	440棟	440棟
急傾斜地崩壊	10棟	10棟	10棟
計	530棟	600棟	600棟

≪人的被害(死者数)≫

	夏季の昼	冬季の夕方	冬季の深夜	
建物倒壊	5人未満	5人未満	5人未満	
津波	「すぐに避難する」 割合が20%の場合	260人	210人	170人
	「すぐに避難する」 割合が70%の場合	60人	50人	60人

(注) 昼の人数が夕方や深夜より多くなるのは、十勝港や中広尾地区に多くの従業者がいるためです。

避難開始時間	「すぐに避難する」※1		「用事のあと避難する」※4	
	夏季	冬季※3	夏季	冬季※3
昼間	5分	7分	15分	17分
夜間※2	10分	12分	20分	22分

- ※1 巨大地震の場合は揺れが5分程度継続する可能性があるため(揺れがおさまってから避難)
- ※2 夜間は寝間着からの着替えなどのため昼間より+5分と仮定
- ※3 冬季は防寒着の着用などのため夏季より+2分と仮定
- ※4 用事を不足時間として+10分と仮定

≪負傷者数≫

	夏季の昼	冬季の夕方	冬季の深夜
「すぐに避難する」 割合が20%の場合	20人	30人	60人
「すぐに避難する」 割合が70%の場合	20人	30人	60人

・津波に巻き込まれ負傷する人の数、建物倒壊に巻き込まれて負傷する人の数等を推計しています。

≪低体温症要対処者数≫

	夏季の昼	冬季の夕方	冬季の深夜
低体温症要対処者数			60人

・低体温症要対処者は、津波から難を逃れた後、屋外で長時間、寒冷状況にさらされることで低体温症により死亡のリスクが高まる人を指します。後背地に道路や街が広がっていない高台や避難経路が寸断される場所など、屋内への二次避難が困難な場所に逃げた人の数を推計しています。

早期避難のための準備をしましょう。

迅速な避難をするために

日頃からの避難場所・避難経路の確認

日頃から、どの経路でどこへ避難するか、身近に危険な場所はあるかを確認し、家族や地域で避難方法などについて話し合っておきましょう。津波が5分程度で襲来する場合もあるため、ハザードマップでいち早く避難できる高台を確認しておくことも大切です。また、隣近所などの身近に避難のお手伝いが必要な人が居ないかも確認しておきましょう。



避難情報に従いましょう

避難に関する情報を無視するのは、きわめて危険な行為です。必ず従いましょう。いつでもハザードマップに示された区域が浸水するとは限りません。津波警報が発表されたら、その時に合った避難が行えるように備えておきましょう。また、役場が被災する可能性もあるため、避難情報が発令される前に津波が襲来する場合があります。どんな状況でも情報を掴めるように携帯ラジオ等を常備しておきましょう。



津波警報・注意報の種類（気象庁より）

	予想される津波の高さの表現		想定される被害	取るべき行動
	数値での発表	巨大地震の場合		
大津波警報	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	<ul style="list-style-type: none"> 木造家屋は全壊・流失 人は津波による流れに巻き込まれます 	▶ 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください
	10m (5m<予想高さ≦10m)			
	5m (3m<予想高さ≦5m)			
津波警報	3m (1m<予想高さ≦3m)	高い	<ul style="list-style-type: none"> 標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生 人は津波による流れに巻き込まれます 	▶ 津波は繰り返し襲ってくるので警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください
津波注意報	1m (0.2m<予想高さ≦1m)	(表記しない)	<ul style="list-style-type: none"> 海の中では人は速い流れに巻き込まれます 養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します 	<ul style="list-style-type: none"> 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください 注意報が解除されるまで海岸に近づかないでください

●地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報（若干の海面変動）」を発表します。

地震が起きたらとるべき行動

地震発生 身の安全の確保

強い揺れを感じたら、まずは自分の身を安全に守るように心がけましょう。現在は震度5弱以上の揺れを感知すると、自動的にガスが止まるようになっていたため、慌ててコンロの火を止める必要はありません。大きな揺れの中、無理に消そうとするのはやけどをするおそれがあり大変危険です。



揺れがおさまったら 火の始末・出口の確保

揺れがおさまったら、火の始末を行いましょう。必ず消火器を備え、すぐに使用できるところに置いておきましょう。消火器の使用方法は、日頃から確認しておきましょう。また余震に備え、ドアを開けるなど出口を確保しましょう。



わが家の安全確認・避難の準備

家族や隣近所の安全を確認しましょう。余震で被害拡大のおそれがある場合はすぐに避難を開始しましょう。避難する場合には、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めてから避難しましょう。外出中の家族のために避難先や安否情報を書いたメモを残すことも大切です。



「津波浸水地域」にいる方は、「すぐに避難」を!

- ▶ 強い揺れや、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら、「すぐに避難」を心がけてください。
- ▶ 津波が来るおそれがありますので、揺れがおさまったら電気のブレーカーを落としてすぐに避難を開始しましょう。テレビやラジオの情報を待っていると逃げ遅れることがありますので避難しながら情報を確認しましょう。

東日本大震災の津波避難行動の教訓

- ▶ 安全に避難するには**早期避難**が重要
- ▶ 車で避難した人の1/3が**渋滞に巻き込まれ被害にあった**
- ▶ 迅速に避難した人は**津波襲来に対する意識が高い**
- ▶ 「家族を探す」「忘れ物をとりに自宅に戻る」などの行動が**避難を妨げる**
- ▶ **避難の呼びかけや率先避難**が避難をうながす要因になる

冬は避難路や避難階段がすべりやすかったり、除雪が追いついていない場合があります注意が必要です

感染症が心配される中でも災害時には**危険な場所にいる人は避難することが原則**

知っておくべき避難の③つのポイント

- 1 避難先は、町の避難場所だけではありません。安全な場所に住んでいる親戚・知人など頼れる人がいれば、そこに避難することも考えてみましょう。
- 2 マスク・消毒液・体温計・スリッパなど、できるだけ**自ら**携行しましょう。
- 3 やむをえず**車中泊**をする場合は、危険な場所ではないか**周囲の状況等を十分確認**してください。また、その場合は**定期的な運動や換気**などを心がけてください。



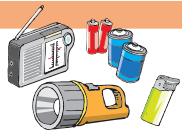
「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう!

非常持出品・備蓄品を準備しましょう

非常持出品 避難する時にまず最初に持ち出すものです

ラジオ・照明器具

携帯ラジオ、懐中電灯、ヘッドライト、予備の電池、ライター・マッチなど



非常用食品・飲料水

アルファ米・缶詰・カンパンなど火を通さずに食べられるもの、水など
※家族の人数に応じ、持ち出し可能な量を用意してください



貴重品

現金（小銭も準備）、通帳、免許証・健康保険証のコピー、携帯電話（スマートフォン）・充電器・モバイルバッテリー など



衣類、救急・衛生用品

上着、下着、タオル、バスタオル、軍手、雨具、マスク、スリッパ、消毒液、体温計、ばんそうこう、ウェットティッシュ、防災頭巾、ヘルメット、軽量毛布 など



各自必要なもの

メガネ、コンタクトレンズ、補聴器、入れ歯、普段飲んでいる薬、お薬手帳のコピー など



移動に必要なもの

ハザードマップ、リュックサック、運動靴 など



家族構成に合わせて準備しましょう

● 高齢者や身体の不自由な方がいる家庭

介護・看護用品、紙おむつ、服用薬など身体状況に合わせて準備しましょう



● 赤ちゃんがいる家庭

粉ミルク、液体ミルク、ほ乳びん、おむつやミネラルウォーター など
お子さんの状況によっては離乳食やスプーンも準備しましょう



非常備蓄品 災害復旧までの最低3日間（出来れば1週間）、生活できるように備えておくものです

飲料水・食料品

カップ麺、レトルトご飯、缶詰、レトルト食品、冷凍食品など
水は1人1日3ℓが目安



調理器具

カセットコンロ、ガスボンベ、やかん、なべ、おたま など



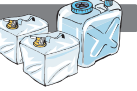
洗面用具

水がなくても洗える
ドライシャンプー、
体拭きシートなどもあります



生活用水

断水になった時のために、風呂やポリ容器に貯水しておくのもよいです



寒さ・暑さ対策

身体を温める：ポータブルストーブ（電池式・ガスボンベ式）
使い捨てカイロ、サバイバルシート、
防寒着、手袋、帽子、毛布 など



身体を冷やす：冷却シート、瞬間冷却材 など

長期保存できる日用品や生活必需品

ティッシュペーパー、トイレットペーパー、ラップ、予備電池、予備ガスボンベなど、災害時に入手困難になる可能性があるため、長期保存できるものは多めに備えておきましょう



あと役に立つ代用品

電池式ランタン、簡易トイレ、
ガムテープ など



！ 北海道は特に、寒さ対策が重要です

防寒着、体が濡れたときのための肌着の替えなどを準備しておきましょう



避難リュックの中のもの、避難時に濡れてしまわないように、ポリ袋に入れましょう

避難所では、床からの冷えを防ぐため上靴を準備し、毛布などの寒さ対策の必需品が不足する事態もあるため、準備しておきましょう

防寒着セット（最低1泊分）など持出品を入れた避難リュックを玄関先に置いておくことをお勧めします！

避難場所をハザードマップで確認しましょう

指定緊急避難場所

災害から命を守るために、町民が緊急的に避難する場所です。津波発生時は、まず指定緊急避難場所に避難しましょう。

！ 赤字の地区は、家屋や施設が津波浸水想定区域内にあるか、津波により孤立する可能性がある地区です

地区	指定緊急避難場所
音調津	・道道音調津陣屋線駐車帯付近 ・音調津避難施設前(スキー場跡地)
桜(美幌地区)	・美幌地区高台
桜(フンベ地区)	・フンベ地区高台
山フンベ	・山フンベ集会所
中広尾	・役場車両センター
上浜会所 防人 緑町 朝日 5丁目 漁港区	・旧広尾保育所グラウンド
入舟町 11丁目	・老人福祉センター駐車場
6～8丁目	・役場コミセン駐車場
9丁目 10丁目	・旧広尾小学校グラウンド ・老人福祉センター駐車場
南ふ頭 第2ふ頭	・第2ふ頭避難階段空き地 ・老人福祉センター駐車場
12～13丁目 駅前 北樺	・広尾高校グラウンド
つつじが丘 栄町 こぶしが丘	・広尾小学校グラウンド
並木町 公園 錦町 錦通	・青少年研修センター前
第3ふ頭 第4ふ頭	・十勝港展望台駐車場
丸山5丁目 桜が丘 丸山南7丁目 茂寄	・コミュニティグリーンパーク
新生 野塚市街 野塚	・旧野塚小学校グラウンド
豊似市街 紋別 東豊似	・豊似小学校グラウンド ・農村環境改善センター前

指定避難所（第一次避難所）

災害の危険性があり避難した町民が災害の危険性がなくなるまでの期間滞在したり、また、災害により自宅へ戻れない町民が一時的に滞在する場所です。

地区	指定避難所（第一次避難所）
音調津	・音調津避難施設 ・広尾町葬斎場
桜	・広尾町葬斎場 ・東地区集会所(たんぼぼ会館) ・広尾町商工会館
山フンベ	・山フンベ集会所
中広尾	・コミュニティセンター
上浜 入舟町 9丁目 会所 防人 緑町 朝日 5～8丁目 10～13丁目 駅前 北樺 漁港区 南ふ頭 第2ふ頭	・東地区集会所(たんぼぼ会館) ・広尾町商工会館 ・コミュニティセンター ・老人福祉センター ・広尾中学校 ・広尾高校
つつじが丘 栄町 こぶしが丘 丸山5丁目 桜が丘 丸山南7丁目 茂寄	・広尾小学校
並木町 公園 錦町 錦通 第3ふ頭 第4ふ頭	・青少年研修センター ・ひろお保育園
新生 野塚市街 野塚	・旧野塚小学校 ・野塚公民館
豊似市街 紋別 東豊似	・豊似小学校 ・農村環境改善センター

※ 上記地区別の指定避難所は目安であり、被災状況、施設の安全性等を考慮した上で開設する避難所を決定します。

！ 津波ハザードマップを参考に避難場所までの経路を確認しましょう

